

令和 5 年度専門領域推進部運動器理学療法領域勉強会 活動報告書

日 時：令和 5 年 4 月 20 日（木） 19 時～20 時

形 式：オンライン開催（Zoom）

内 容：講義 『大腿骨近位部骨折術後患者に対する急性期病院での課題』

情報提供者：沼澤 慎介 氏（米沢市立病院 登録理学療法士）

参加者：39 名

内容の詳細：

超高齢社会の到来に伴い、高齢者の脆弱性骨折が増加している。特に発生頻度が高い大腿骨近位部骨折は患者の ADL、QOL を著しく低下させるのみならず生命予後も悪化させることが知られている。臨床で多く経験する大腿骨近位部骨折について理解を深め、参加者の治療介入の一助になる事を目的に本勉強会を企画した。

今回、急性期病院で務める沼澤先生に、術後と限られた期間の中でどのような考えを基に治療介入しているかをご教授頂いた。はじめに、「本疾患の概要」、「山形県における発生状況」、さらには「当分野の先進国で行われている取り組み」をご提示頂き、参加者の大腿骨近位部骨折についての理解を進める機会となった。さらに、限られた介入期間の中で特に歩行獲得に向けた具体的な治療介入をご教授頂いた。

「歩けないから単に歩行訓練を行う」といった短絡的な治療ではなく解剖学・生体力学的な背景から予後改善に向け行われている具体的な治療例は、多くの参加者の参考になったと考えられる。大腿骨近位部骨折に限らずその他の股関節疾患にも応用が出来る有意義な勉強会となった。

文責：山形徳州会病院 多田雄俊